

M3T-PD32RM, M3T-PD32R ご使用上のお願い

M32Rファミリ用エミュレータデバッガM3T-PD32RMおよびM3T-PD32Rの使用上の注意事項を連絡します。

- 「実行前PCブレーク」を使用したブレーク機能に関する注意事項

1. 該当製品

M3T-PD32RM 全バージョン

M3T-PD32R 全バージョン

2. 内容

「実行前PCブレーク」を使用するブレーク機能が正しく動作しない場合があります。

2.1 発生条件

以下の条件をすべて満たす場合に発生します。

- (1) ターゲットMCUが以下のいずれかである。
32170グループ、32171グループ、32172グループ、32173グループ、
32174グループ、32176グループ
- (2) ブレークポイントに「実行前PCブレーク」を使用する設定をしている。
- (3) チップイベントに「実行前PCブレーク」を使用する設定をしている。
- (4) 上記(2)と(3)に、同じアドレス値が設定されている。

2.2 発生例

次の設定を行って、ターゲットプログラムを実行すると、1000H番地の命令が実行されてもターゲットプログラムの実行がブレークしません。

以下は、M3T-PD32RM V.2.00 Release 1およびM3T-PD32R V.4.00 Release 1の設定例です。

- (1) プログラムウィンドウを開き、1000H番地のブレークポイント設定領域でマウスの左ボ

タンをダブルクリックして、ブレークポイントを設定する。

M3217xグループのシングルチップモードおよび外部拡張モードでは、1000H番地は内蔵ROM領域であるため、ブレークポイントには「実行前PCブレーク」が使用され、ブレークポイント表示領域には、「b」が表示される。

- (2) トレースポイント設定ウィンドウで、以下の設定を行う。
 1. "Set Chip Event"グループの"CE0"ボタンを押す。
 2. 開いた"CE0 - Set Chip Event"ダイアログで以下の設定を行う。
 - 2.1 "Enable"チェックボックスにチェックをつける。
 - 2.2 "Event Type:"コンボボックスで"Preexe-PC 0"を選択する。
 - 2.3 "Address:"エディットボックスにH'1000を設定する。
 - 2.4 "OK"ボタンを押す。
 3. "Set"ボタンを押す。

3. 回避策

ブレークポイントの「実行前PCブレーク」とチップイベントの「実行前PCブレーク」に同じアドレス値を設定しないでください。

[免責事項]

過去のニュース内容は発行当時の情報をもとにしており、現時点では変更された情報や無効な情報が含まれている場合があります。ニュース本文中のURLを予告なしに変更または中止することがありますので、あらかじめご承知ください。